

変革する

森林組合

大田原市森林組合(栃木県大田原市、植竹雅弘組合長)は、ドローンを使った森林計測や薬剤散布で森林整備の効率化を図っている。今年度からはアタッチメントを変えて薬剤散布と同じドローンで苗木や資材の運搬も始めた。人工林の主伐期入りで皆伐、再造林が増えているが、人海戦術の造林では限界がある。最先端技術の導入によって一段の効率化を図ろうとしている。

組合は2007年に黒羽町森林組合と合併して現在の組織となり、大田原市内の7896haの森林を管理している。23年度の素材生産量は3万2000立方尺(業者持ち込み含む)。内訳(直営)が6割。素材生産の6割以上が製材用で、ラ



植竹 組合長

ミノ用との合計では8割以上に達する。栃木県北東部に位置する大田原市は江戸時代から林業が盛んで、黒羽藩の重臣であった篤林家、興野隆雄が著

ドローンで補助申請、現場作業効率化

▷大田原市森林組合(栃木県)◁

独自の研修制度で雇用も好循環

号に登録されている。伐採された木材は「8

の代名詞にも。

ドローンは、空撮用と薬剤散布用の2台を保有している。空撮用はドローンの空撮画像からオルソ画像を作成し、GISで施業範囲の記入や面積の計測などをして補助申請資料を作成している。薬剤散布用は自動運行による薬剤の自動散布で造林地の下刈り作業を軽減している。オペレーターは空撮用が8人、薬剤散布用の大型機が3人。

「下刈りは夏場だけだが、春の植栽に大型機を利用できれば稼働率が上がり、作業負担も軽減される」と植竹

組合長は語る。直営の人、一般職が12人。毎年1〜2人を採用し、

後だが、新植面積は同70〜90ha、下刈りは同340ha前後あり、見や安全対策についてゼ口から学び、2年目は木県大田原市黒羽田町22番地。電話0287・53・121

▼大田原市森林組合

〒321-0877



8月の研修会で公開したドローンのデモ飛行

人員を充実させる。技能職の好循環につながっている(植竹組合長)。研修制度を設けてお放したい所有者からの研修期、研修期森林取得も進めてお間の2年間で、組合の森林経営計画は固定給で画に取り込んで管理している。所有森林面積は現在180ha超。森林経営計画の策定面積は1594ha。森林整備の促進と所有者への還元を目的に現在、J-クレジットの申請を

△

△

△